

釧路都心部まちづくり計画【事業構想編】の策定に向けて

～ 釧路駅周辺を中心とする都心部の活性化に向けた、 新たな道路ネットワークについて～

1 はじめに・・・パブリックコメントの実施について

市では、釧路の「かお」である都心部の活性化やコンパクトなまちづくりの推進、防災・減災への対応、跨線橋^{注1}の老朽化への対応に向け、**鉄道高架化を基本とした釧路都心部まちづくり計画【事業構想編】**の策定を進めています。



この【事業構想編】に、より多くの市民の皆さんのご意見を反映させるため、**本構想の前半部を対象にパブリックコメントを実施**することとしました。



前半部は、本構想の位置付けや基本理念・基本方針を示すと共に、都心部・釧路駅周辺(ゲートウェイ)のめざすべき姿として、**新たな道路ネットワークのあり方を提案**しています。これらの内容について、**市民の皆さんからのご意見をお待ちしています。**

注1: 跨線橋とは、鉄道線路を横切って架けた橋であり、一般的に自動車や歩行者が安全に鉄道を横断することができる橋の事をいいます。

2 釧路都心部まちづくり計画【事業構想編】の構成(案)と策定スケジュール

2-1 【事業構想編】の構成(案)について

【事業構想編】は第1章～第5章までの章立てを想定しており、今回は第1章～第3章までの前半部について、ご意見を頂きたいと考えています。

【事業構想編】目次(案)

- 第1章 釧路都心部まちづくり計画 とは
 - 第2章 事業構想編の基本理念・基本方針
 - 第3章 都心部・釧路駅周辺(ゲートウェイ)のめざすべき姿
 - 第4章 釧路駅周辺(ゲートウェイ)の再整備に向けて
 - 第5章 にぎわい交流ゾーンの活性化に向けて
- ※あくまで現時点の構成であり今後変更する可能性があります

本資料で説明している章
(ご意見を頂きたい箇所)

2-2 策定スケジュールについて

今回のパブリックコメント終了後、2021年1月(予定)には【事業構想編】(素案)を公表し、本構想の全体を対象としたご意見を頂いた上で、3月末(予定)の成案化を目指します。

2020年8月19日～
9月18日

前半部を対象とした意見募集

今回実施

【事業構想編】(前半)
パブリックコメント

2021年1月(予定)

全体を対象とした意見募集

【事業構想編】(素案)
パブリックコメント

2021年3月末(予定)

【事業構想編】策定

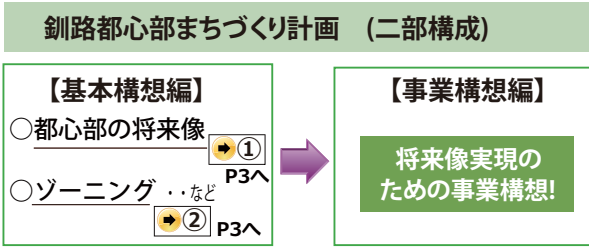
※あくまで現時点の予定であり今後変更する可能性があります

3-1 第1章 釧路都心部まちづくり計画とは

釧路都心部まちづくり計画は、市民・民間事業者・行政が目指す都心部の将来の姿を共有し、連携して都心部の活性化に取り組むための指針であり、【基本構想編】と【事業構想編】の二部構成からなるものです。

このうち【事業構想編】は、市が平成30年度末に策定しました【基本構想編】で示す釧路駅周辺を中心とする都心部の将来像の実現を目指すものとし、市が考える釧路駅周辺の鉄道施設、新たな道路ネットワーク、土地区画整理の3つの柱からなる事業構想として位置付けます。

注2



3-2 第2章 【事業構想編】の基本理念・基本方針

【事業構想編】は、ゲートウェイ(釧路駅周辺)とにぎわい交流ゾーン(北大通～共栄新橋大通)に着目する事業構想であり、「人が主役」「人々が憩い楽しむシンボル軸となる空間」をキーワードに基本理念や基本方針を以下の様に考えています。

【基本構想編】による ゾーンの考え方	【事業構想編】による	
	基本理念	基本方針
<p>ゲートウェイ (ひがし北海道の玄関口)</p> <p>市民や圏域住民、観光客など、様々な目的で都心部を訪れる人々を呼び込み、まちへ送り出す「人が主役」となる賑わいの拠点の形成を目指す。</p>	<p>まちの真ん中は、みんなで楽しめる場所にするため、ここを公共交通中心の空間にする。</p>	<p>○駅前、北大通や共栄新橋大通は、人中心の空間への転換</p> <p>○人中心の空間づくりは、既存ストックの利活用</p>
<p>にぎわい交流ゾーン (玄関口とまちをつなぐ軸)</p> <p>北大通等の沿道を中心としたエリアを、玄関口とまちをつなぐ軸とし、様々な目的を持った人々が憩い楽しむシンボル軸となる空間の形成に向けて、歩行空間の利活用促進に向けた施策等を推進する。</p>		<p>○「市民」の皆さんと共に考える</p>

※あくまで現時点の基本理念・基本方針であり今後変更する可能性があります

注2：土地区画整理とは、より良いまちづくりの一つの手法として、道路や公園等の公共施設を新たに設置するために土地所有者が宅地の一部を出し合い、街区の再編など、あらためて土地を分配し直すことを言います。

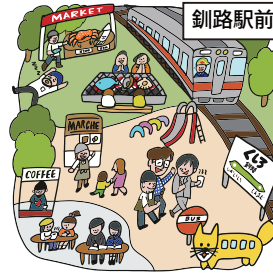
① 【基本構想編】による都心部の将来像とは・・・？

都心部の将来像は「ひがし北海道の「かお」となる「人」が集う、交流と賑わいの拠点、多様なライフスタイルに対応した豊かな暮らしの拠点を形成し、次世代に継承することを目指す」こととしています。

計画の愛称 **RINK 釧路** Re:Innovation to Next generation, central Kushiro
～次世代に向けた釧路都心部のRe・Innovation～



図表 都心部の将来像に基づくまちの未来イラスト (基本構想編からの抜粋)



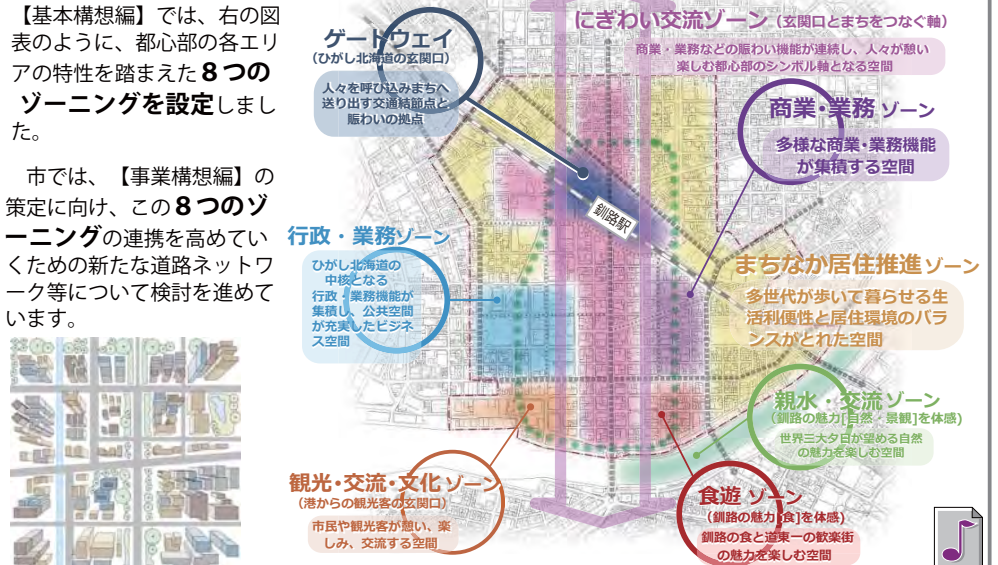
釧路駅の南北の広場がつながり、駅から、バスターミナルから、北大通から、駅の「裏」だった駅北から、多くの人が行き来しています。観光客で賑わう市場、仕事帰りや乗り継ぎついでにふらっと買い物ができるスーパー、学生が勉強したり友達とおしゃべりできるカフェなど、駅前には、釧路駅を訪れる様々な人が思い思いの時間を過ごすことができます。

駅前広場では、日常的に行われる地産マルシェ、炉端焼きの屋台、コーヒースタンドなどで賑わっています。出店しているのは、地元の生産者とのつながりを生かして釧路の「食」の魅力を発信している若い人たちです。周りでは子どもたちが広場の芝生で遊んでいて、親子連れの賑やかな笑い声が聞こえてきます。

② 【基本構想編】によるゾーニングってなに・・・？

ゾーニングとは、建築物などの機能や用途を考えて、空間を分けて配置することです。これによって、各ゾーンの個性や特徴を明確にし、都心部の魅力を創出する機能の集積や充実を図るほか、各ゾーンの相互間の「回遊性を備えたネットワークづくり」を進めることによって、活気とにぎわいの創出を目指します。なお、ゾーニングは法や条例等により定めておりませんので、法的な拘束力はありません。

図表 ゾーニングの設定 (基本構想編からの抜粋)



3-3 都心部・釧路駅周辺（ゲートウェイ）のめざすべき姿

市では、前ページ(第2章【事業構想編】の基本理念・基本方針)を踏まえ、**都心部の将来像を実現するための新たな道路ネットワーク**を提案します。

鉄道高架化を基本とした新たな道路ネットワークの概念図（案）

ゲートウェイ（ひがし北海道の玄関口）を訪れた人々を、にぎわい交流ゾーン（玄関口とまちをつなぐ軸）でまちなかに導き、各ゾーン（行政業務・食遊など）に人の賑わいを波及させる道路ネットワークとする。



市のシンボルロードである北大通や、駅前の旭橋通、駅前南浜町通などは、**都心部に用事が無く、通り過ぎる自動車交通が多く、人の賑わいが生じにくくなっています**。そこで、都心部に用事の無い市民の皆さんは、**都心部環状道路・放射道路を利用して、都心部を通り抜けて頂くこと**で、都心部環状道路の区域内を通過する交通が減少することが想定されています。

通過する交通が減少することで、**北大通等の歩道上に休憩施設など、憩いの場等を設けることが可能となるほか、災害発生時における交通混雑の解消も期待されています**。

③ ゲートウェイの将来イメージについて（鉄道高架化を基本としたイメージ）

図表 都心部の将来像に基づくまちの未来イラスト(再掲)



市では【基本構想編】に基づく都心部の将来像について、市民の皆さんにより理解を深めていただくため、駅の南側の将来イメージを図化しました。

図表 都心部の将来像に基づく駅の南側のイメージ図



※あくまで現時点の市のイメージであり、このとおり整備することが決まったものではありません。

④ 公共交通(バス)を優先とする道路について

釧路の「かお」となり、市民の居場所となる駅前空間の実現を目指し、人と公共交通が主役となる「公共交通(バス)優先道路」を基本的な方向とし検討します。以下はバス優先道路のイメージです。

優先度（右に行くほど優先度が高い）

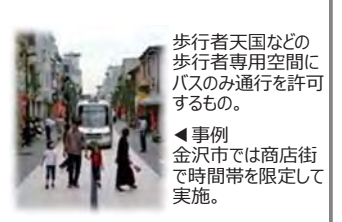
【イメージ①：バス優先・専用レーン】



【イメージ②：バス専用道路】



【イメージ③：トランジットモール】



※上記いずれの場合も、平時の緊急車両や非常時(災害発生時)の一般車両の通行を想定

4 おわりにあたって・・市民の皆様へ

都心部は、釧路・根室連携地域の中核拠点として、ひがし北海道における陸・海・空の交通をつなぎ、買物、通院、飲食・娯楽、観光など、多様な目的で訪れる市民や来訪者の暮らしや滞在を支える重要な役割を担っています。

この都心部は、高度経済成長期の1960～70年代にかけて、釧路駅周辺の基盤整備(跨線橋の架橋等)や、北大通の都市改造(道路拡幅や沿道建物の再開発等)など、釧路駅を核に、人口増加や自動車社会の到来に対応したInnovation(革新)が進み、多くの人々が往来するひがし北海道の拠点として栄えてきました。

しかしながら、人口減少・超高齢社会の到来、都市の郊外化など様々な要因により、都心部にかつての人の往来がなくなっています。また、約50年前に整備した交通インフラの老朽化や大規模災害発生のリスクの高まりへの対応など、先送りできない課題が顕在化しつつあります。



北大通シンボルロード(昭和50年代)
(出典:市制施行70周年記念目で見える釧路の歴史)

市では、これらの課題や、いま・これからの新しい時代に対応した都心部の再生について、鉄道高架化を基本とした、ひがし北海道のかおとなる「人」が集う交流とにぎわいの拠点、多様なライフスタイルに対応した豊かな暮らしの拠点を形成し、次世代に続くまちづくりを目指しています。

市民の皆さんからのご意見をお待ちしています。

釧路市民意見提出手続条例に基づく意見募集資料

釧路都心部まちづくり計画【事業構想編】の策定に向けて
～釧路駅周辺を中心とする都心部の活性化に向けた、
新たな道路ネットワークについて～
(2020.8)

釧路市総合政策部 都心部まちづくり推進室

〒085-8505

釧路市黒金町7丁目5番地

TEL : (0154) 23-5151 FAX : (0154) 25-8149

E mail : to-toshinbu@city.kushiro.lg.jp